

令和6年7月24日

有毒きのこの誤食による食中毒が発生しました

有毒きのこであるドクツルタケ及びコテングタケモドキ（推定）の誤食による食中毒が発生しました。

患者は、上田市内で自生していたきのこを採取し、上田市内の自宅で食べた1グループ1名です。

【事件の探知】

令和6年7月23日（火）午前11時頃、市内医療機関から「野生きのこによる食中毒を疑う患者を診察し、入院している」旨、当課あて通報がありました。

【調査結果概要】

- 患者が採取し、食べたきのこの特徴がドクツルタケ及びコテングタケモドキと類似していた。
 - 患者の症状はドクツルタケによるものと一致していた。なお、コテングタケモドキについては情報が十分ではないが、肝細胞への毒性や胃腸系から神経系への症状の発生が示されていることから患者の症状の一因となっていると判断した。
 - 患者を診察した医師から、食中毒患者の届出があった。
- 以上から、ドクツルタケ及びコテングタケモドキ（推定）を原因とした植物性自然毒による食中毒と断定しました。

患者関係	発症日時	令和6年7月21日（日） 午前5時頃
	患者の主な症状	腹痛、嘔吐、下痢
	発生場所	上田市
	発症者数及び 喫食者数	発症者数／喫食者数 1名／1名 （患者内訳） 男性1名（年齢：20歳代）
	医療機関受診者数	1名（入院中）（受診医療機関数 3か所）
病因物質	植物性自然毒	
原因食品	ドクツルタケ及びコテングタケモドキ（推定）	

【参考】 長野市における食中毒発生状況（本件含む） （令和6年7月24日現在）

令和6年度発生状況（長野市）	5件	130名
令和5年度同期（長野市）	2件	30名

テングタケ科のきのこについて

テングタケ科には有毒きのこが多く、特に白色のものには、非常に毒性の強いドクツルタケやシロタマゴテングタケが含まれ注意が必要です。テングタケ科の特徴は、柄の根元部分にツボと言われる構造やふくらみがあります。



【特徴】

柄の根元部分にはツボ（丸で囲んだところ）があります。また、生えている時にツボは隠れていることがあります注意が必要です。 写真：左がドクツルタケ、右がコテングタケモドキ

[ドクツルタケによる食中毒の症状]

- 食後6～24時間で嘔吐、下痢、腹痛などの症状が現れ、一旦回復した後、肝臓、腎臓機能障害が現れる。
- 適切な処置が行われない場合は死亡することがある。

[コテングタケモドキによる食中毒の症状]

- 肝細胞への毒性や胃腸系から神経系への症状が示されている。

[きのこ中毒防止のポイント]

- 知らないきのこは絶対に採らない、食べない、売らない、人にあげない。
 - きのこの特徴を覚え、確実な鑑別をする。
 - 「柄が縦に裂けるきのこは食べられる」などの誤った言い伝えや迷信を信じない。
- もし、きのこ中毒だと思ったら、すぐに医師の診察を受けましょう。受診の際、原因と思われるきのこが残っている場合は、持参してください。

保健福祉部長 長野市保健所食品生活衛生課

(課長) 大河内 雅彦

(担当) 笠原 美絵

TEL : 026-226-9970

FAX : 026-226-9981

E-mail : h-seikatu@city.nagano.lg.jp